

環境調查結果報告

- ①測量結果
- ②底質調査
- ③付着生物調査
- ④海浜植生調査

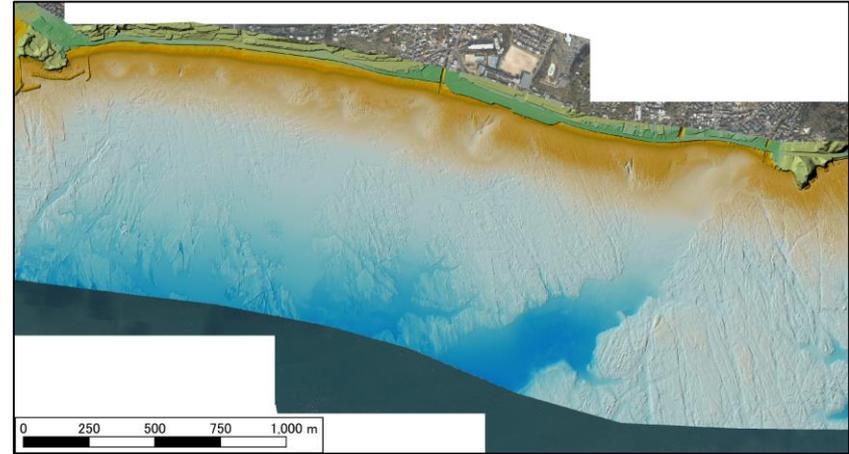
測量結果 七里ガ浜鳥瞰図

- R6年度調査として、R6年12月に航空レーザー測深（ALB）を実施。
- 過年度においては、H30年度（ナローマルチビーム）、R3年度～R5年度（ALB）に実施。

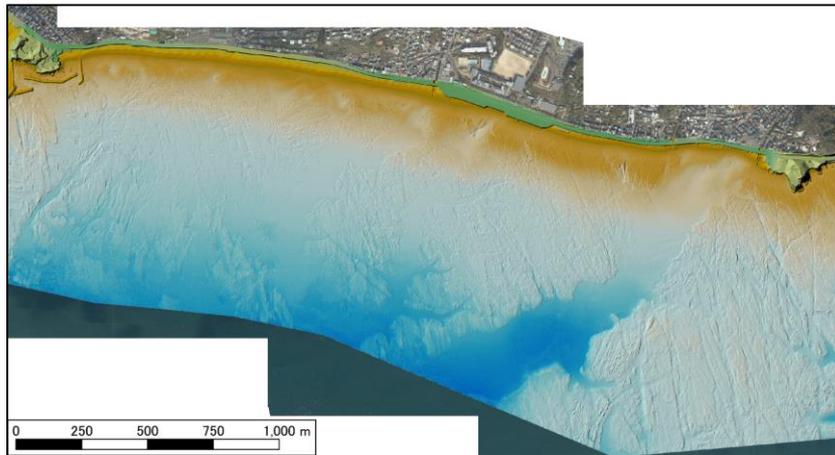
R3年度 (R4年1月)



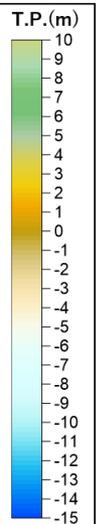
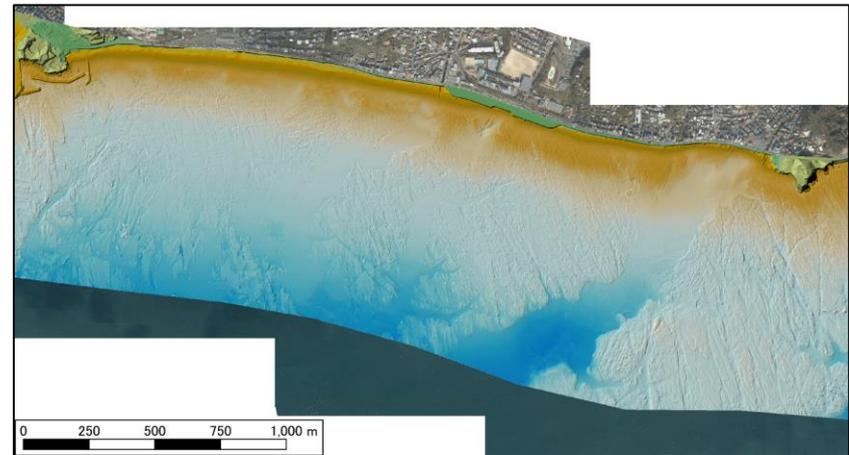
R4年度 (R5年1月)



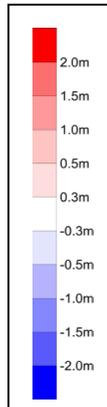
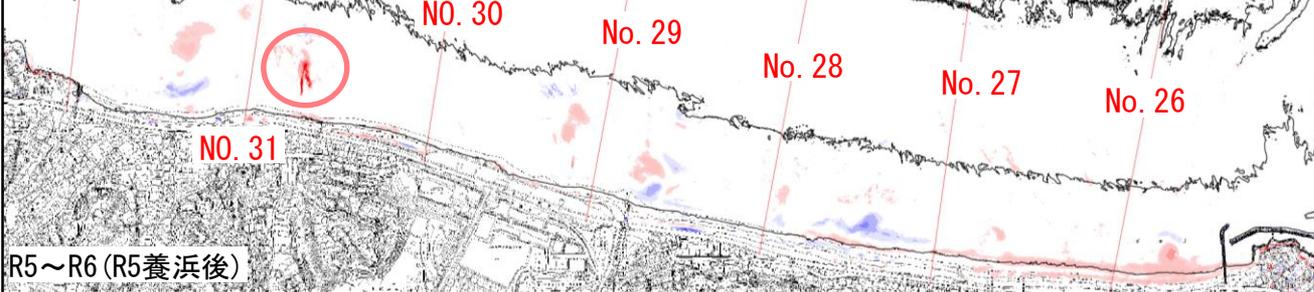
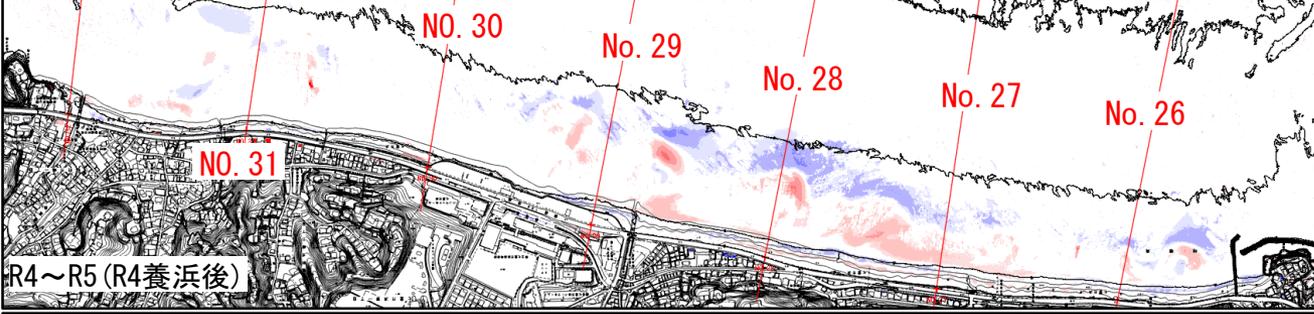
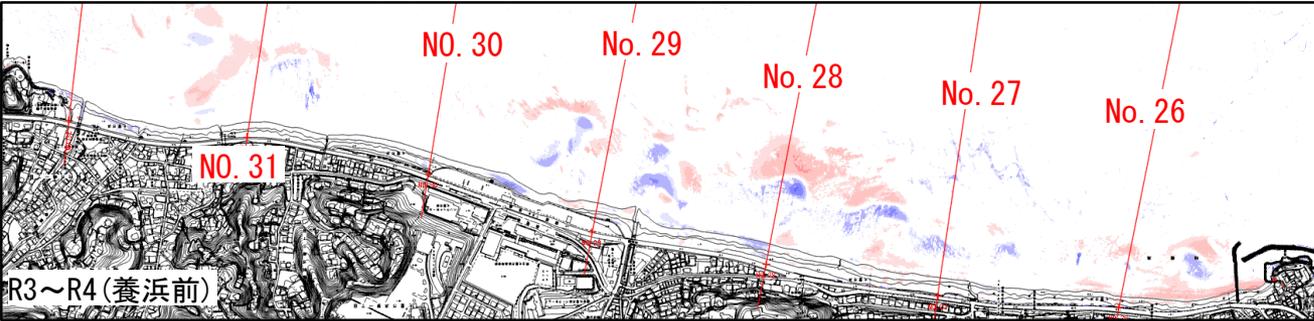
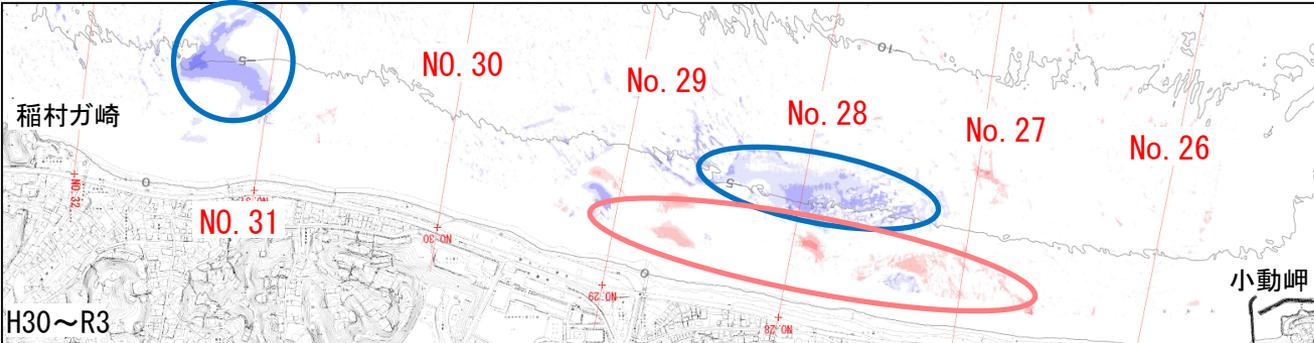
R5年度 (R5年12月)



R6年度 (R6年12月)



測量結果 差分図 (H30~R3、R3~R4、R4~R5、R5~R6)



- No. 27~29のT. P. -3m付近は堆積傾向(赤色)。
- No. 28のT. P. -5m付近、No. 31東側で侵食傾向(青色)。

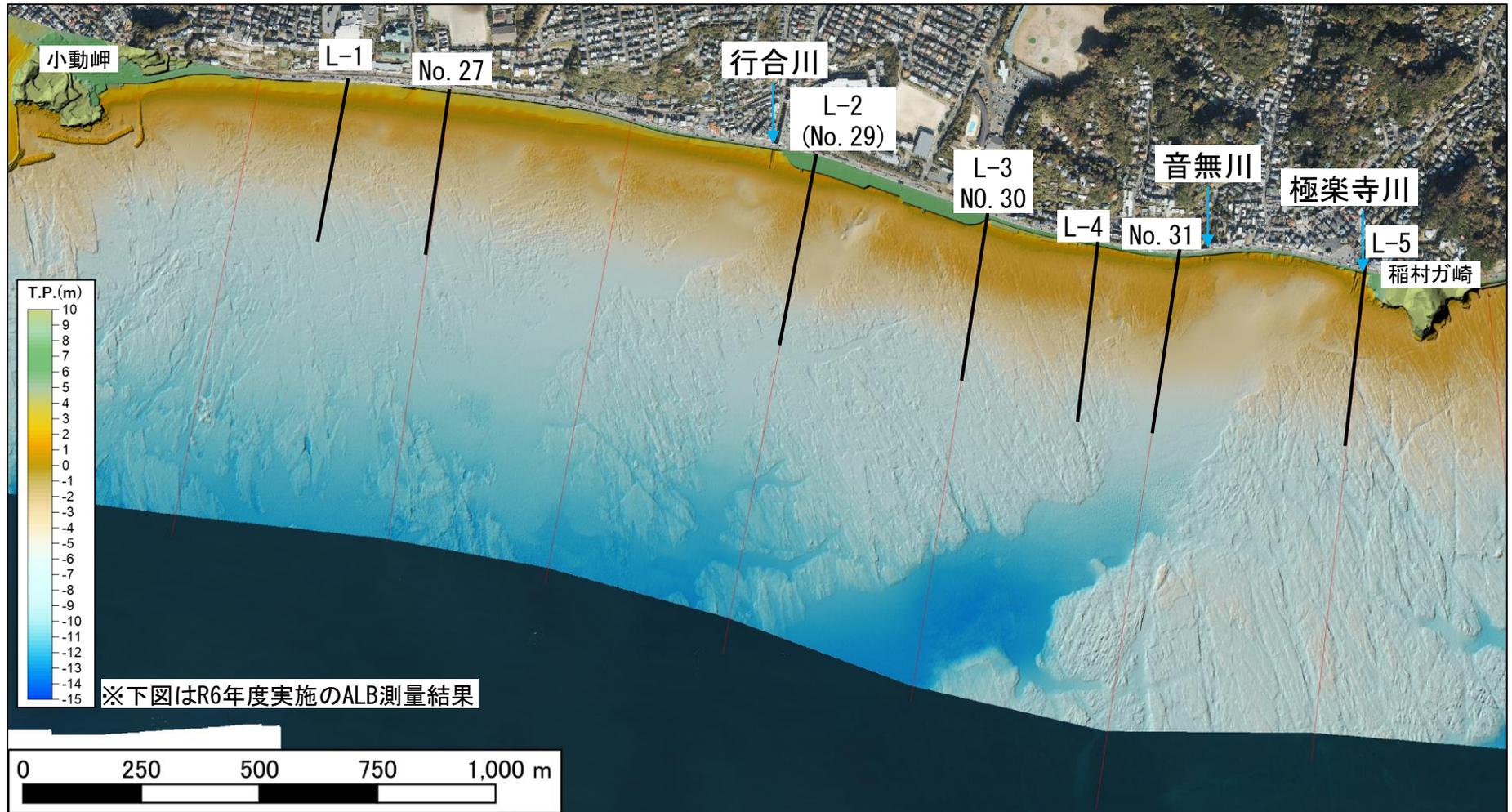
- No. 28のT. P. -5m付近、No. 31東側で堆積傾向(赤色)
- No. 27~29のT. P. -3m付近は侵食傾向(青色)。

- No. 27~29のT. P. -2m付近は堆積傾向(赤色)。
- No. 27~29のT. P. -4m付近で侵食傾向(青色)。

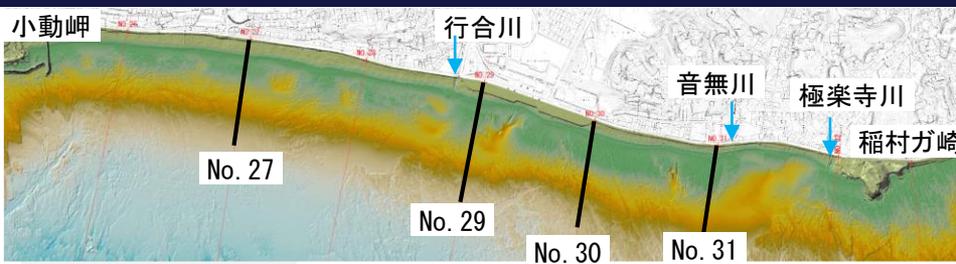
- 養浜位置前面付近の海底岩礁に堆積が確認できる。(赤色)。
- No. 26~27のT. P. ±0m付近は堆積傾向(赤色)。
- No. 27~28のT. P. -2m付近で侵食傾向(青色)。

調査位置

- 底質調査は、No27、No29、No30、No31の測線で実施。
- 藻場調査及び付着生物調査は、ライン1～5の測線で実施。
- 海浜植生調査は、海浜及び道路護岸で実施。

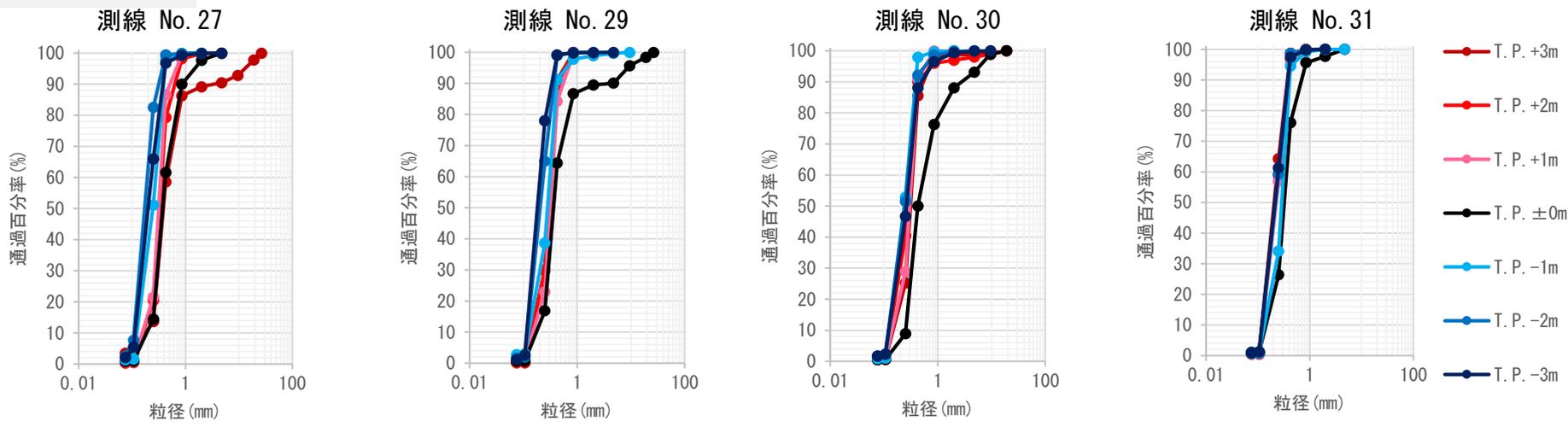


底質の結果 (R6)

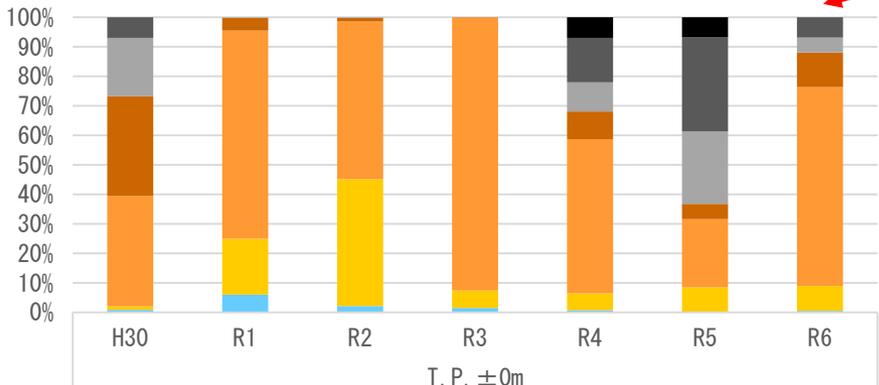


- 既往調査測線の水深ごとの底質を把握
- 4測線 (No. 27、No. 29、No. 30、No. 31) において各7地点 (T. P. +3.0、+2.0、+1.0、±0.0、-1.0、-2.0、-3.0m) 調査実施

粒径加積曲線



測線No. 30 T. P. ±0.0m 組成の経年変化



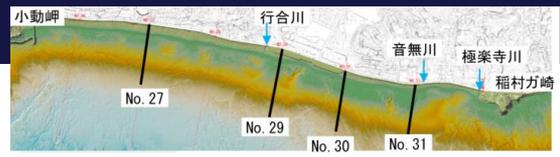
- 粗礫 (19 ϕ ≤ 75)
- 中礫 (4.75 ϕ ≤ 19)
- 細礫 (2 ϕ ≤ 4.75)
- 粗砂 (0.85 ϕ ≤ 2)
- 中砂 (0.25 ϕ ≤ 0.85)
- 細砂 (0.075 ϕ ≤ 0.25)
- シルト (

※カッコ内数値単位はmm

● 測線No. 30 T. P. ±0.0mの底質が粗い。令和5年と比較すると礫分はやや減少

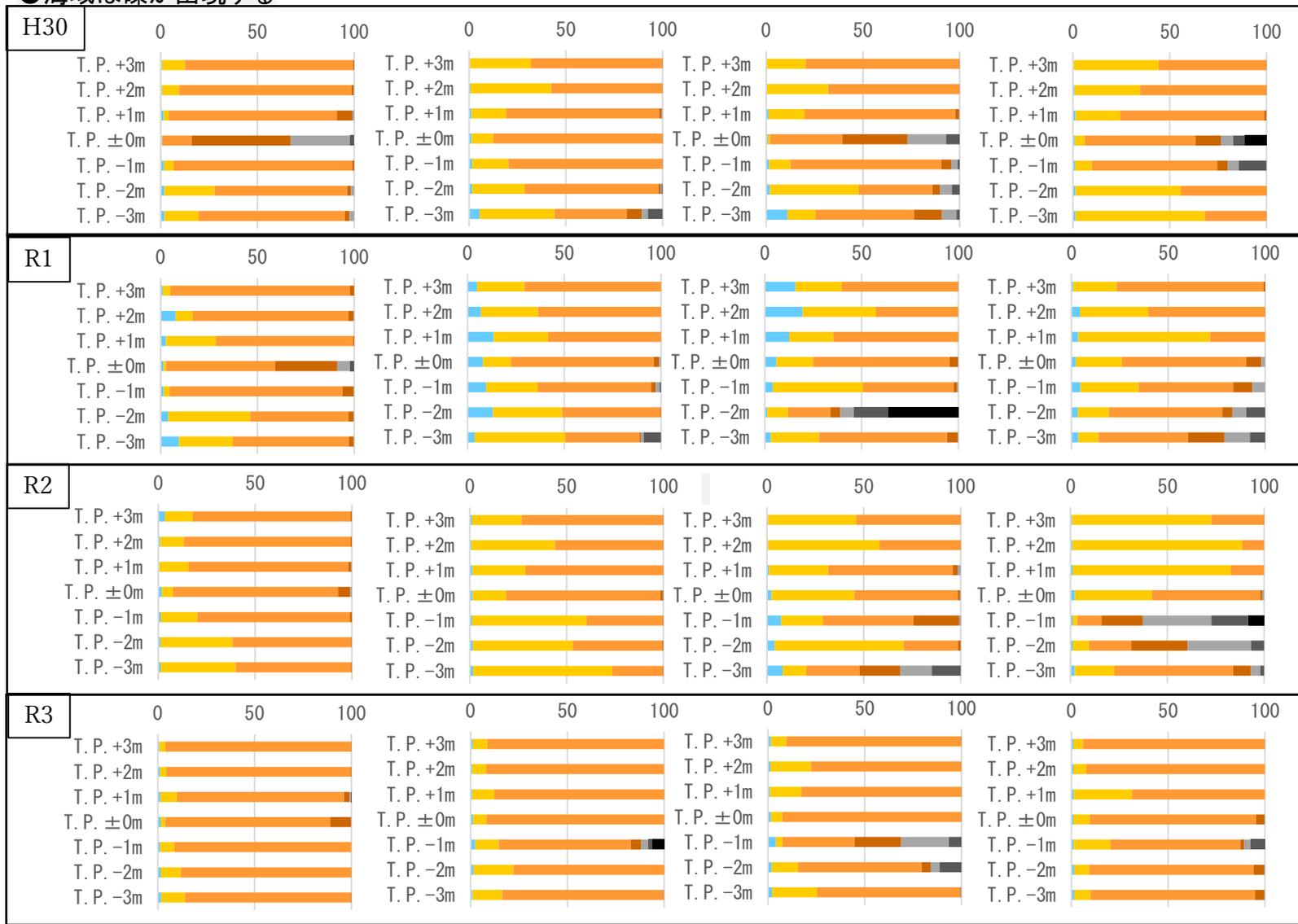


底質の経年変化 (地点別組成)



● 陸域は中砂、細砂であり、変動少ない
 ● 海域は礫が出現する

● 汀線付近は経年的に粗いことが多い



■ 粗礫 (19$\phi\leq 75$)
 ■ 中礫 (4.75$\phi\leq 19$)
 ■ 細礫 (2$\phi\leq 4.75$)
 ■ 粗砂 (0.85$\phi\leq 2$)
 ■ 中砂 (0.25$\phi\leq 0.85$)
 ■ 細砂 (0.075$\phi\leq 0.25$)
 ■ シルト (
 ※カッコ内数値単位はmm

No27

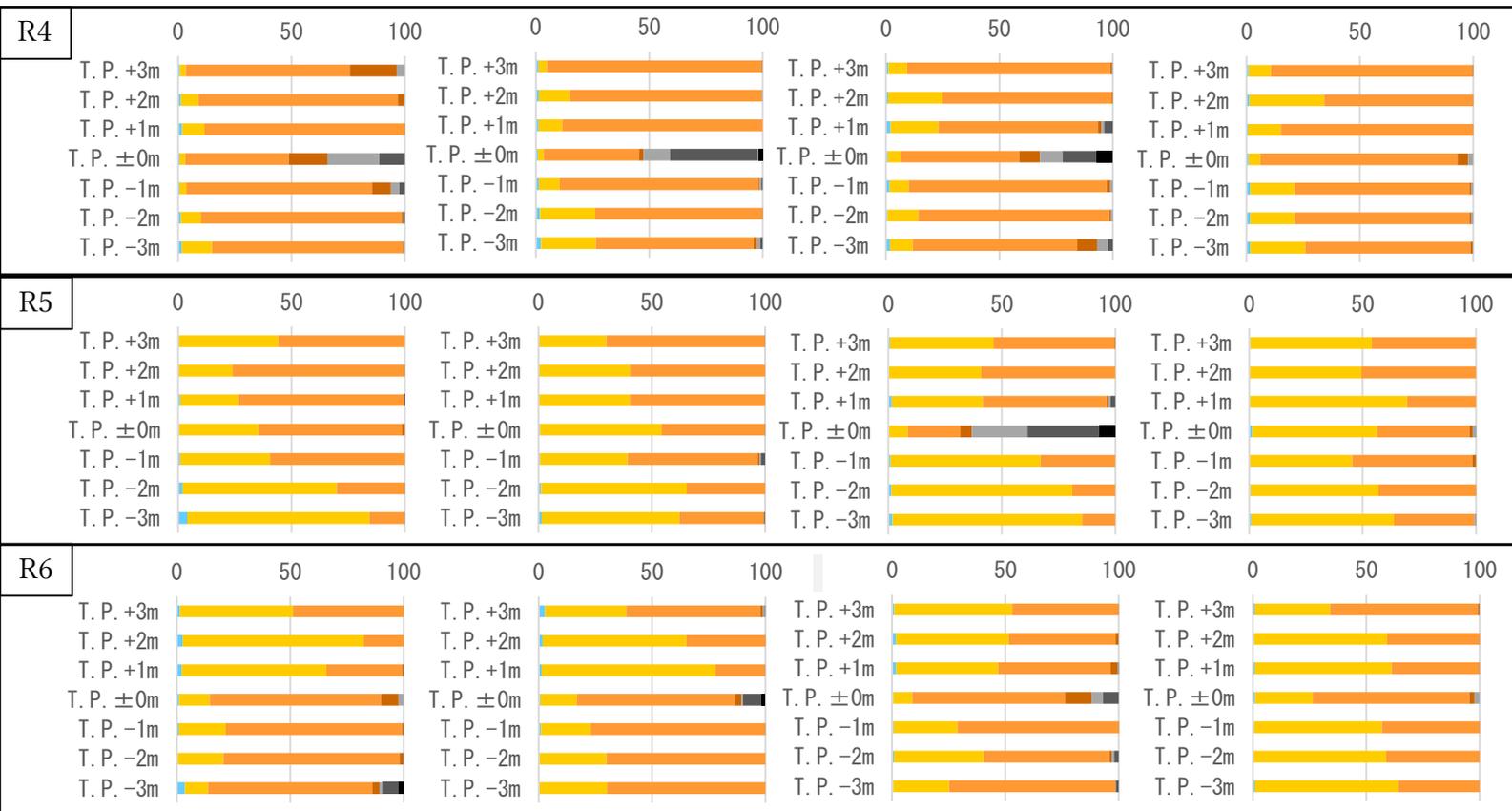
No29

No30

No31

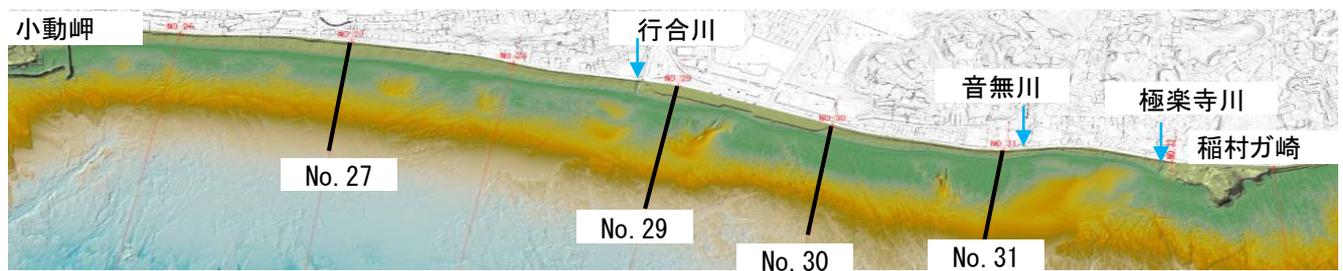
底質の経年変化（地点別組成）

●令和6年は、令和5年と比較すると海域で細砂の割合が減少し、中砂の割合が増加



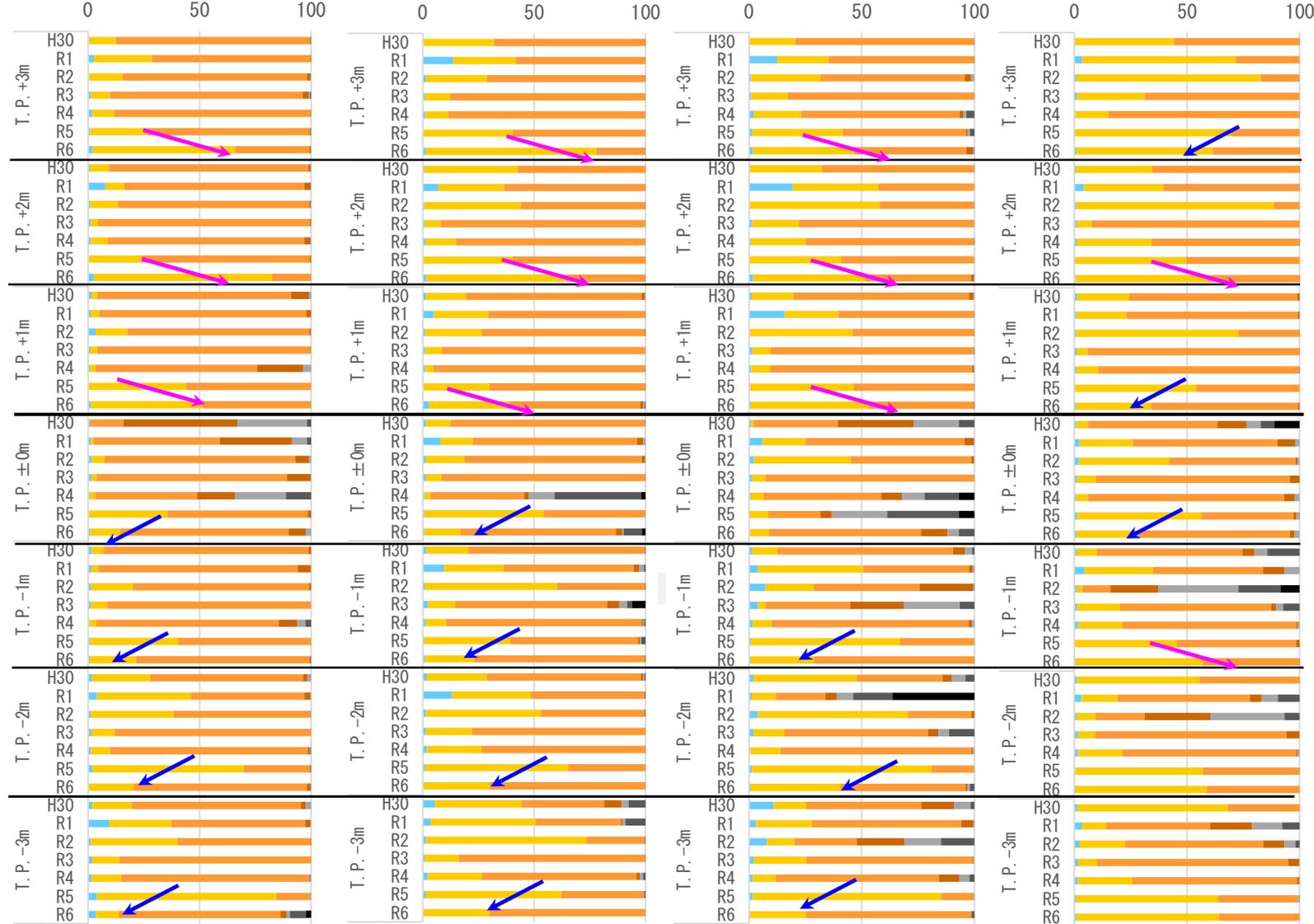
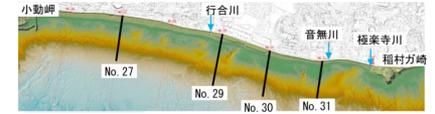
- 粗礫 (19$\phi\leq 75$)
 - 中礫 (4.75$\phi\leq 19$)
 - 細礫 (2$\phi\leq 4.75$)
 - 粗砂 (0.85$\phi\leq 2$)
 - 中砂 (0.25$\phi\leq 0.85$)
 - 細砂 (0.075$\phi\leq 0.25$)
 - シルト (
- ※カッコ内数値単位はmm

No.27 No.29 No.30 No.31



底質の経年変化（地点別組成） 【測点地経年変化】

- 汀線付近は経年的に粗いことが多い
- 海域は礫が出現する
- R5とR6の比較では、陸上で細砂の割合が増え、海域で細砂の割合が減っている傾向がみられる



- 粗礫 (19 < φ ≤ 75)
 - 中礫 (4.75 < φ ≤ 19)
 - 細礫 (2 < φ ≤ 4.75)
 - 粗砂 (0.85 < φ ≤ 2)
 - 中砂 (0.25 < φ ≤ 0.85)
 - 細砂 (0.075 < φ ≤ 0.25)
 - シルト (φ ≤ 0.075)
- ※カッコ内数値単位はmm

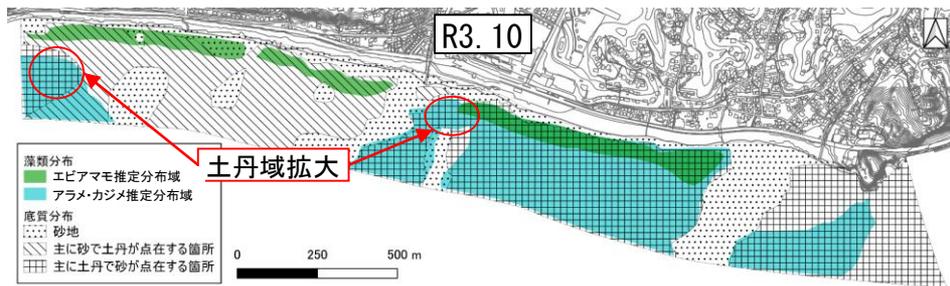
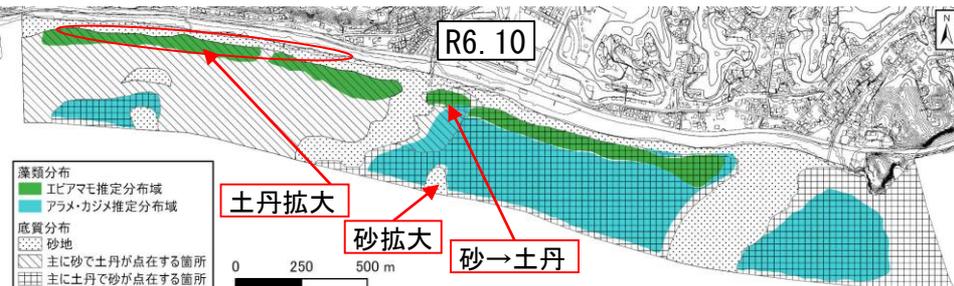
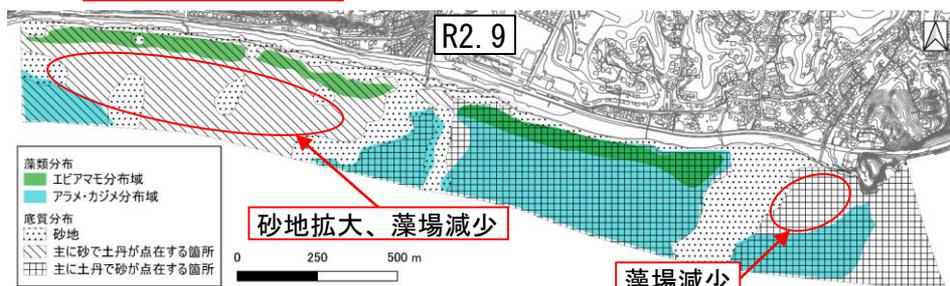
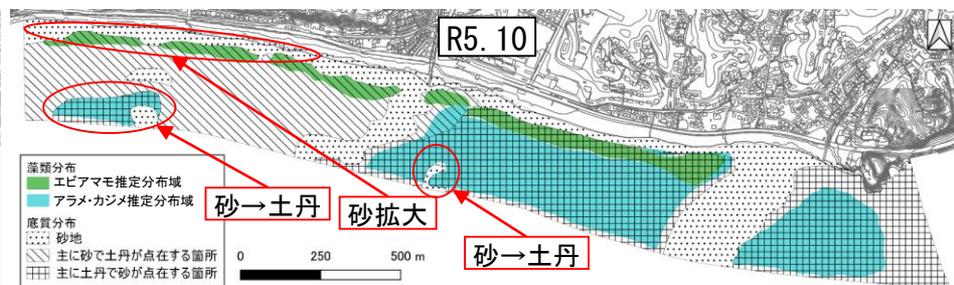
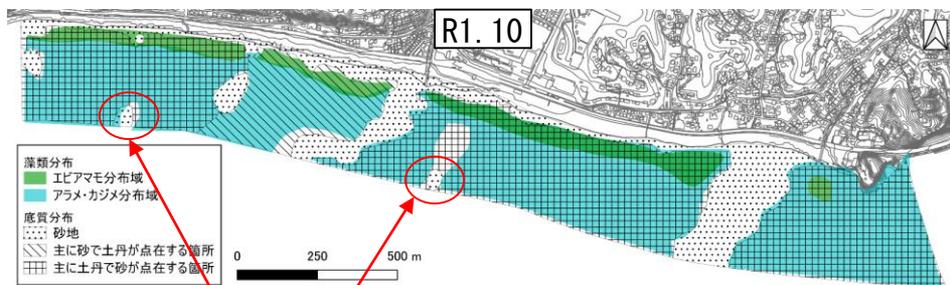
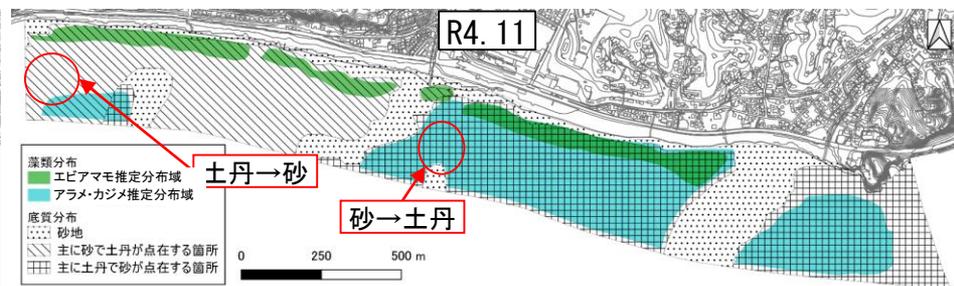
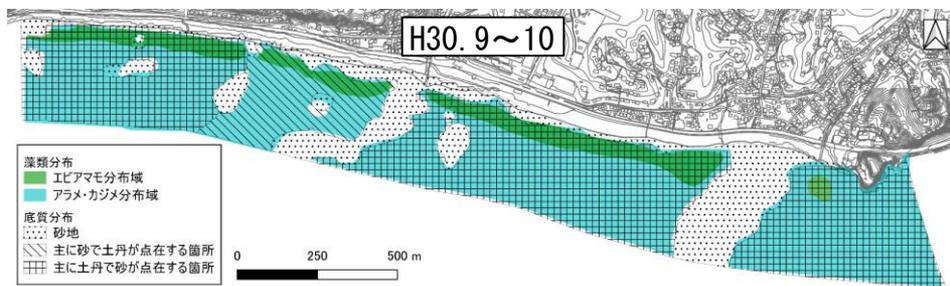
No27

No29

No30

No31

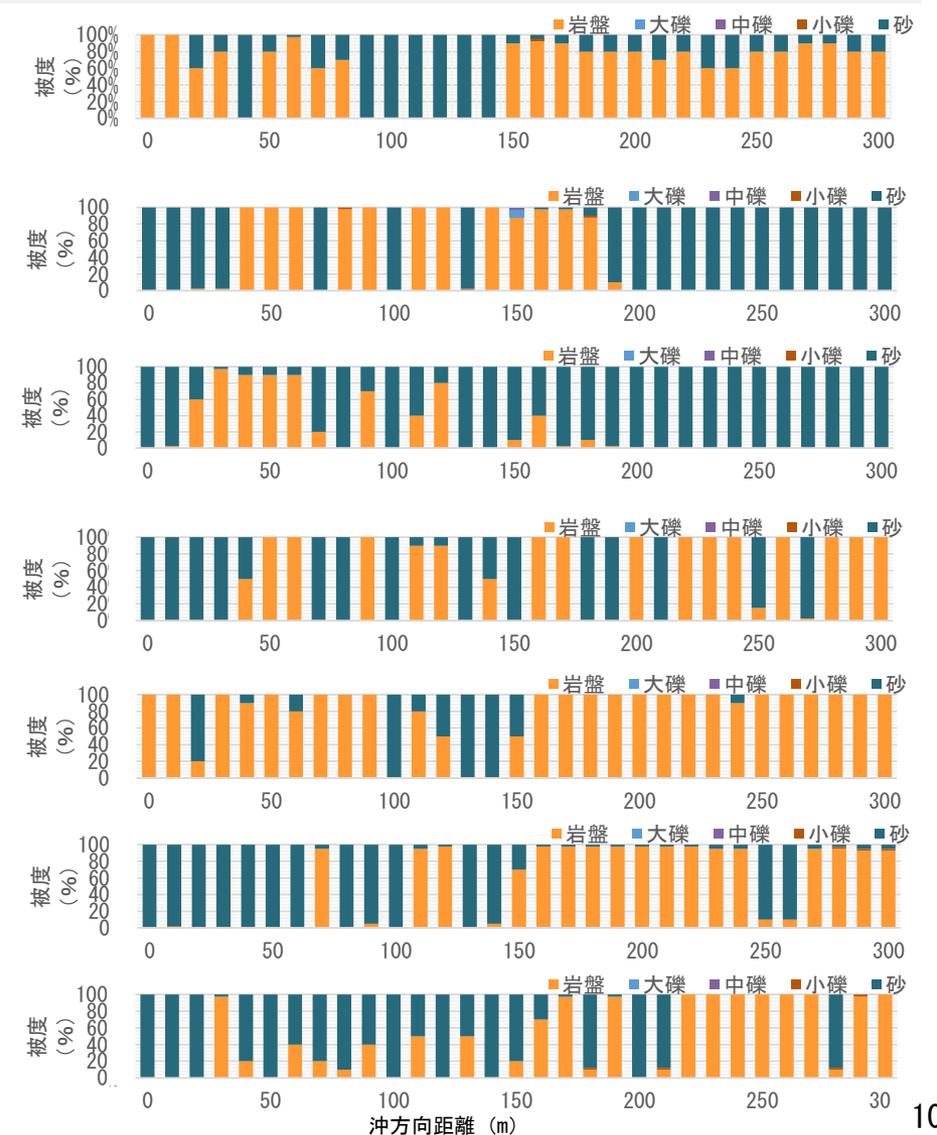
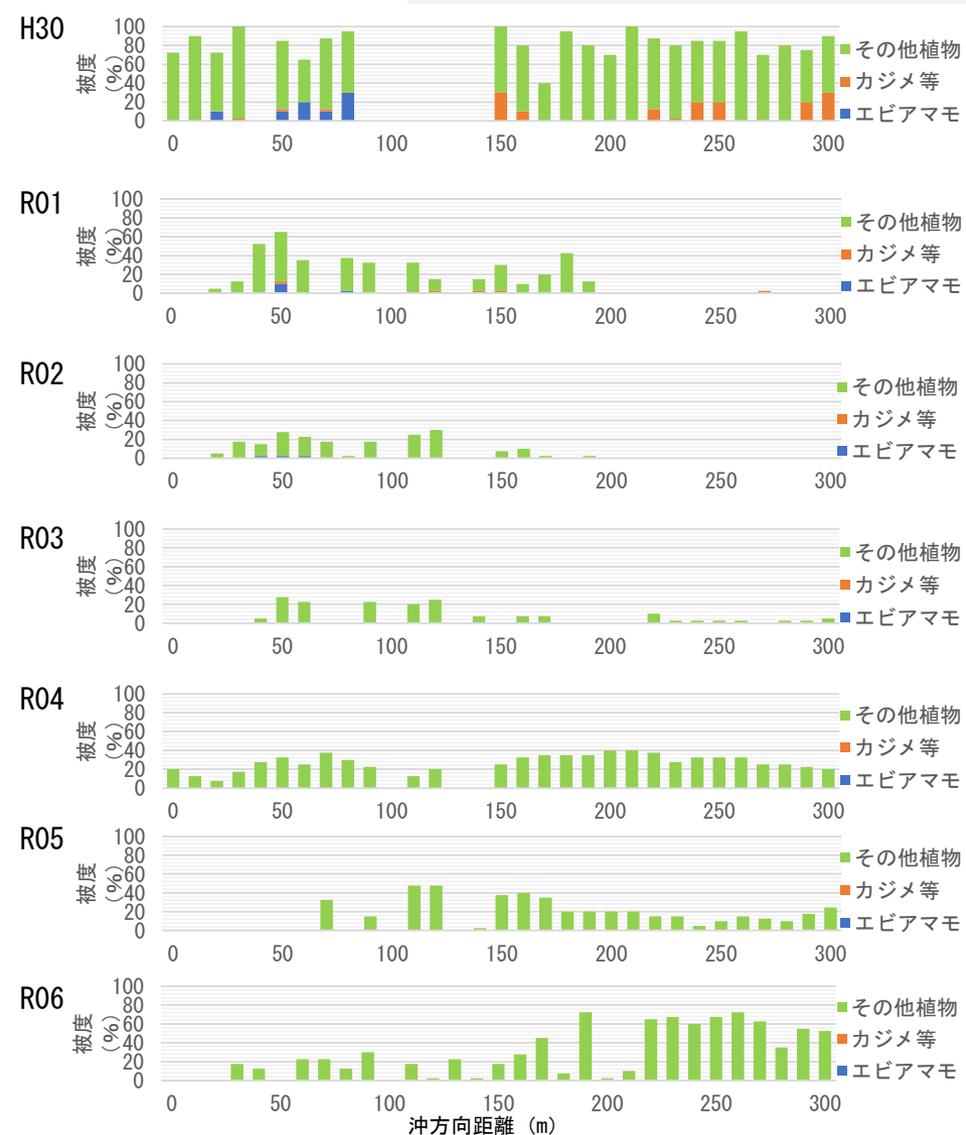
藻場 概略平面分布の推移



- R2年まで、エビアマモは岸と平行に帯状に分布。アラメやカジメは、調査海域全体を通して点在
- 底質は、R2年に西側で砂の堆積域が拡大した以降、大きな変化は生じていない。

藻場 藻場の断面経年変化 (L-1)

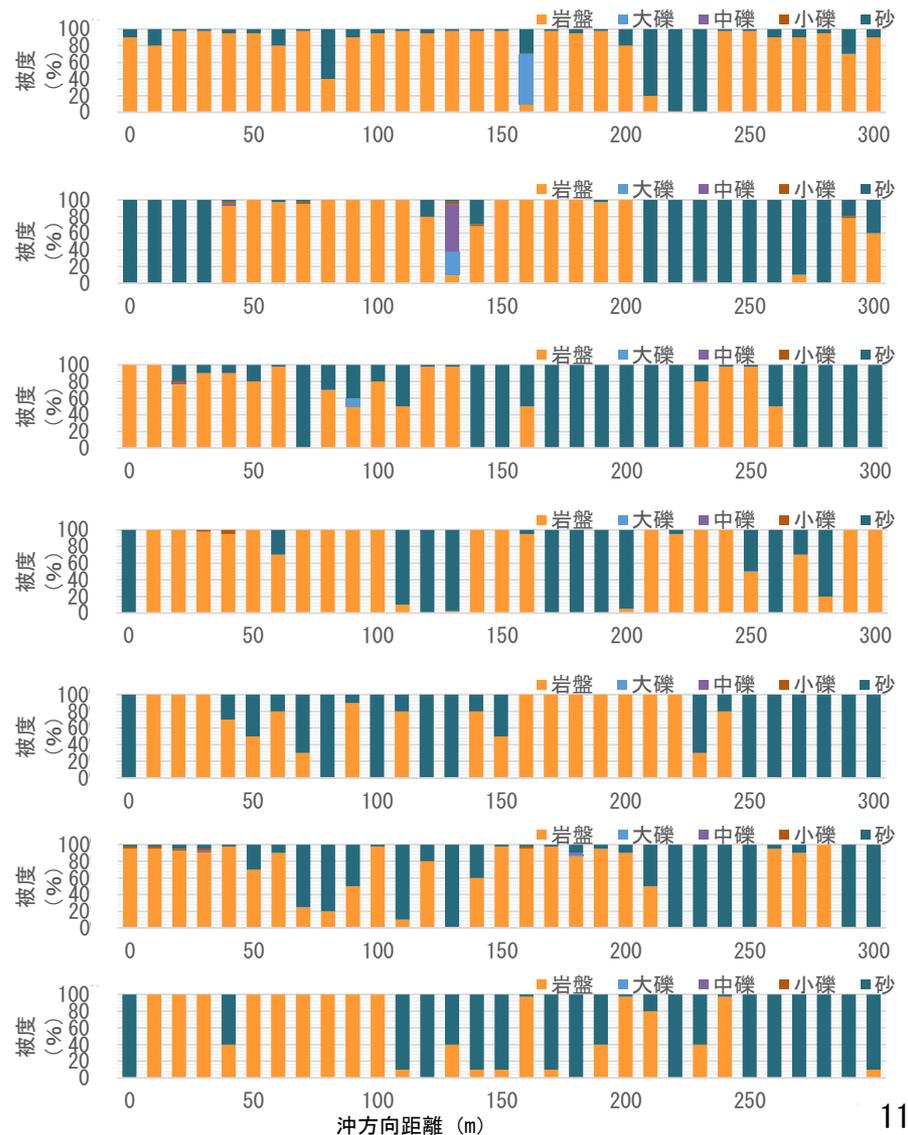
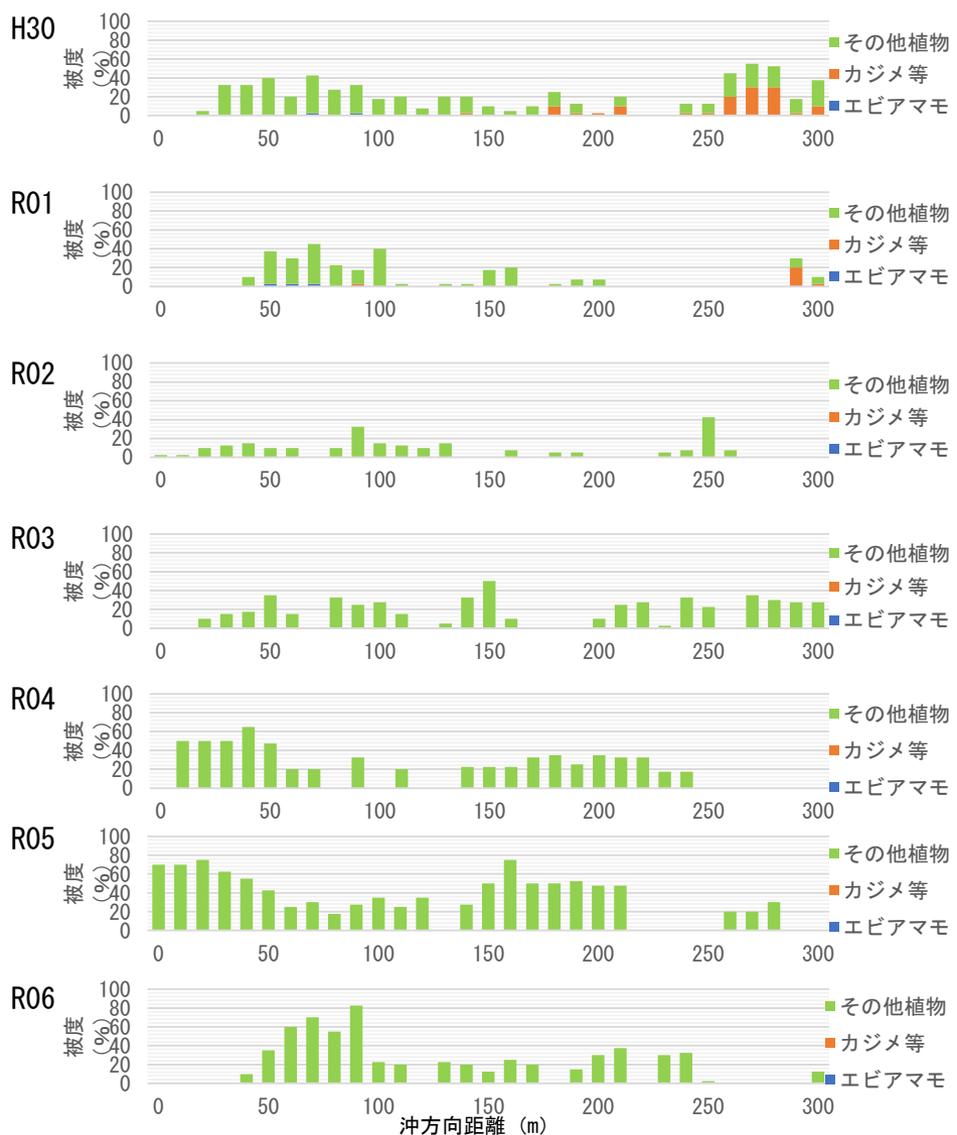
- L-1 (鎌倉高校付近) ● 藻場はH30からR2にかけて減少、R3以降エビアマモ、カジメ等の藻場構成種は未確認。
 ● H30からR2にかけて、砂の割合が増加。R3、R4は岩盤が増加。R5、R6は砂が増加傾向。
 ● その他植物は岩盤の割合に応じ変動している傾向 (全ライン共通)。



藻場 藻場の断面経年変化 (L-2)

L-2 (行合川付近)

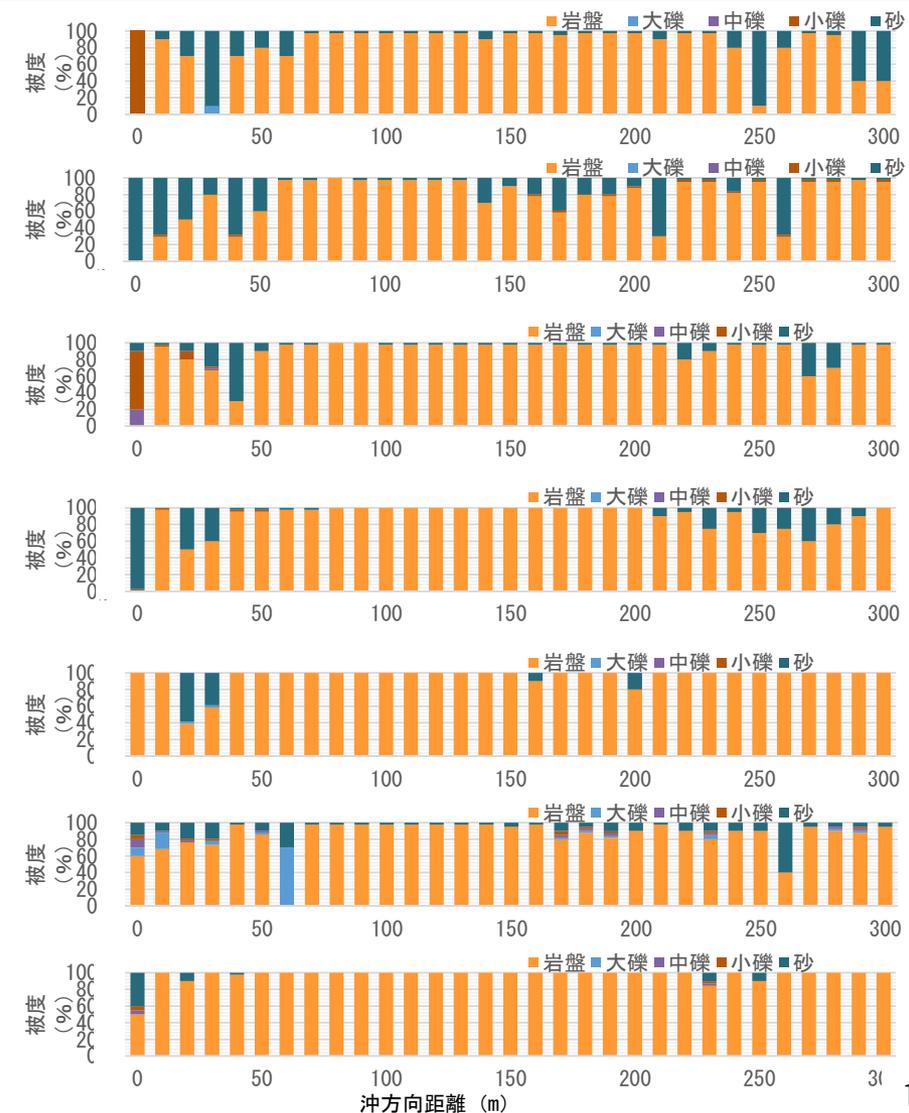
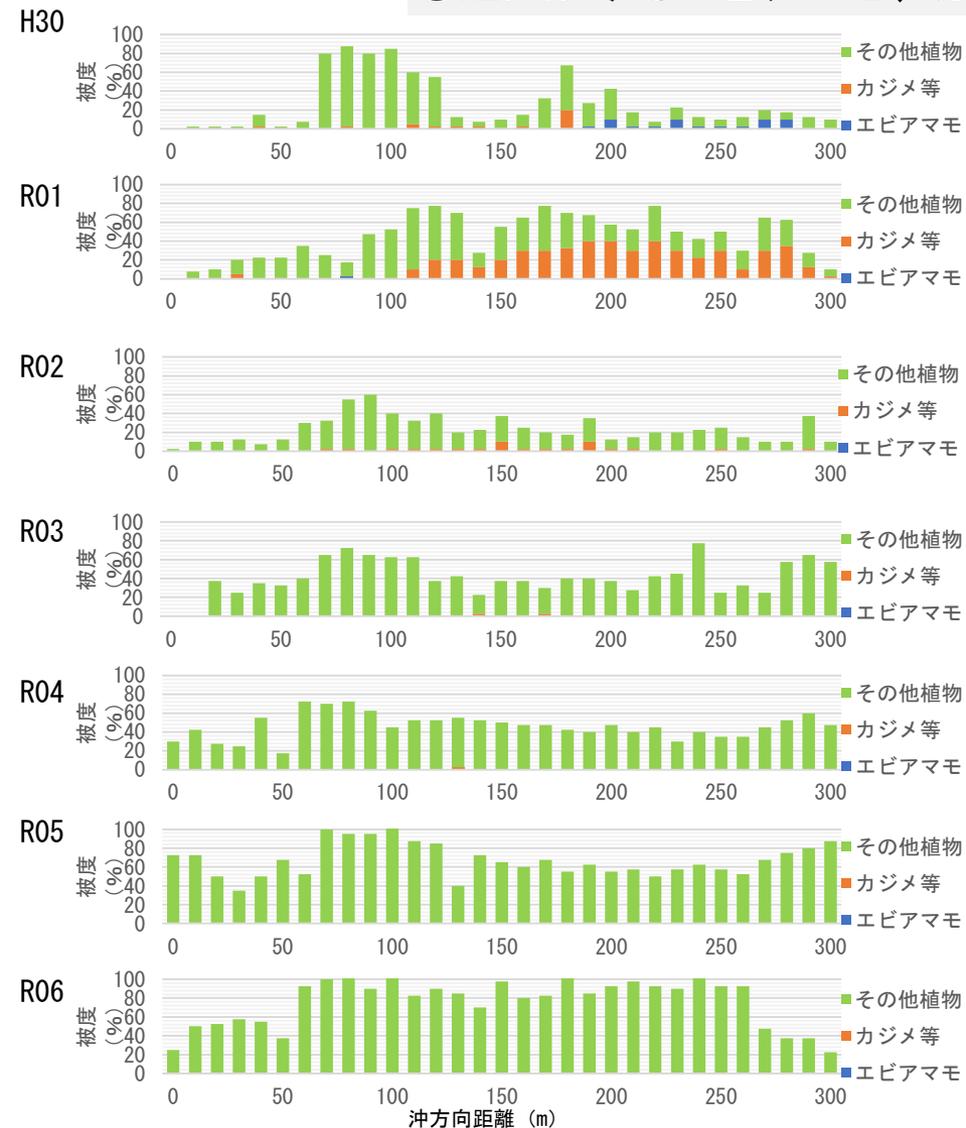
- R2以降エビアマモ、カジメ等の藻場構成種は未確認。
- やや砂が増加傾向。



藻場 藻場の断面経年変化 (L-3)

L-3 (駐車場東端)

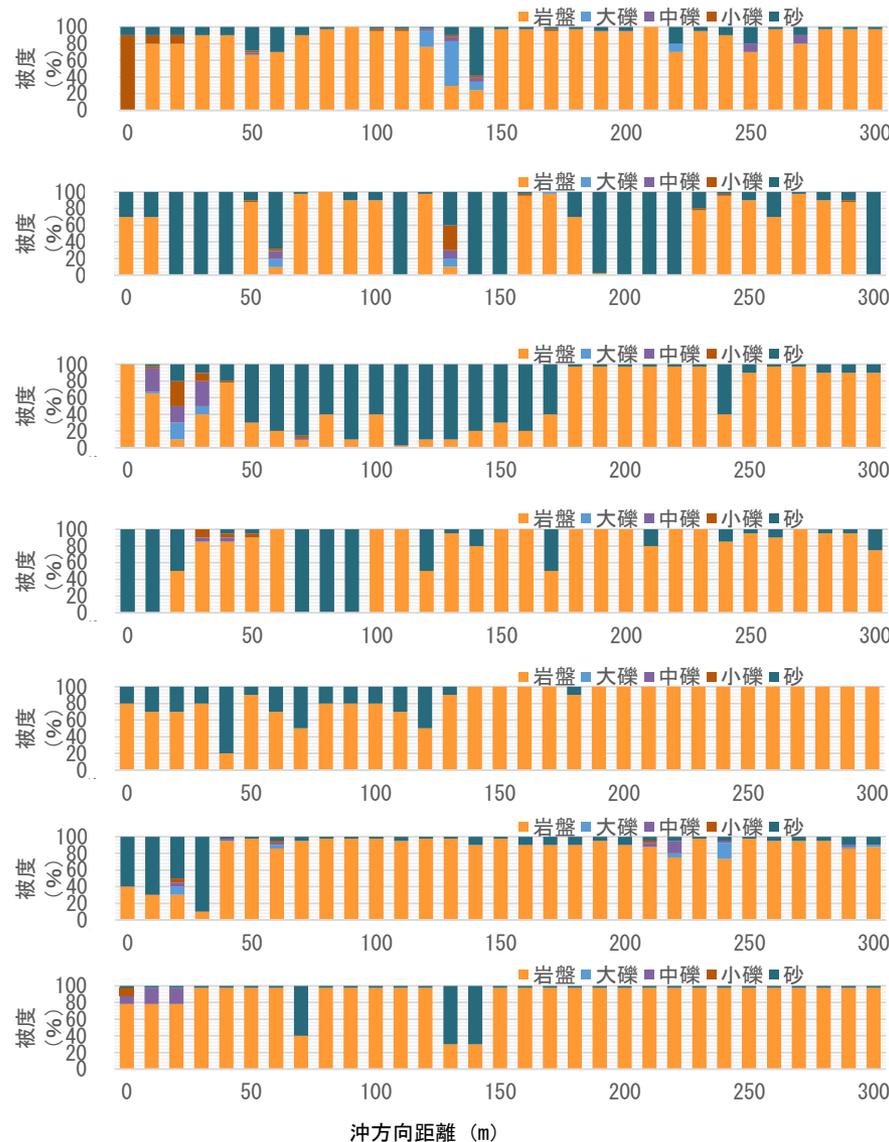
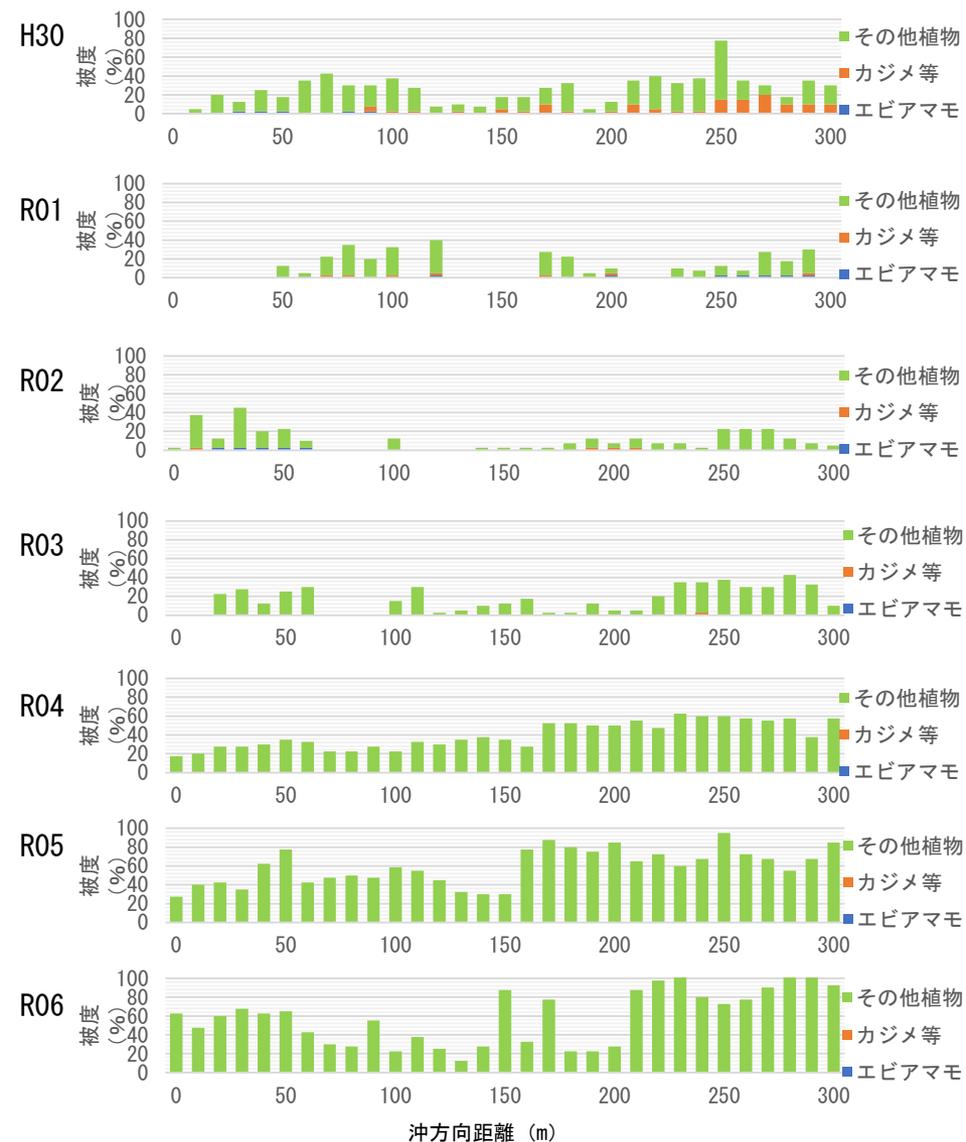
- 岩盤の割合が高い測線。
- 特にR6は岩盤の割合が多くなっており、その他植物が多かった。
- R2にかけてエビアマモ、カジメ等の藻場構成種が減少し、R5以降未確認。



藻場 藻場の断面経年変化 (L-4)

L-4 (江川付近)

●R1、R2に砂の割合が増加、藻場構成種が減少。以降再び岩盤が増加したことにより、藻場構成種が増加しているが、エビアマモ、カジメ等の確認はなし。

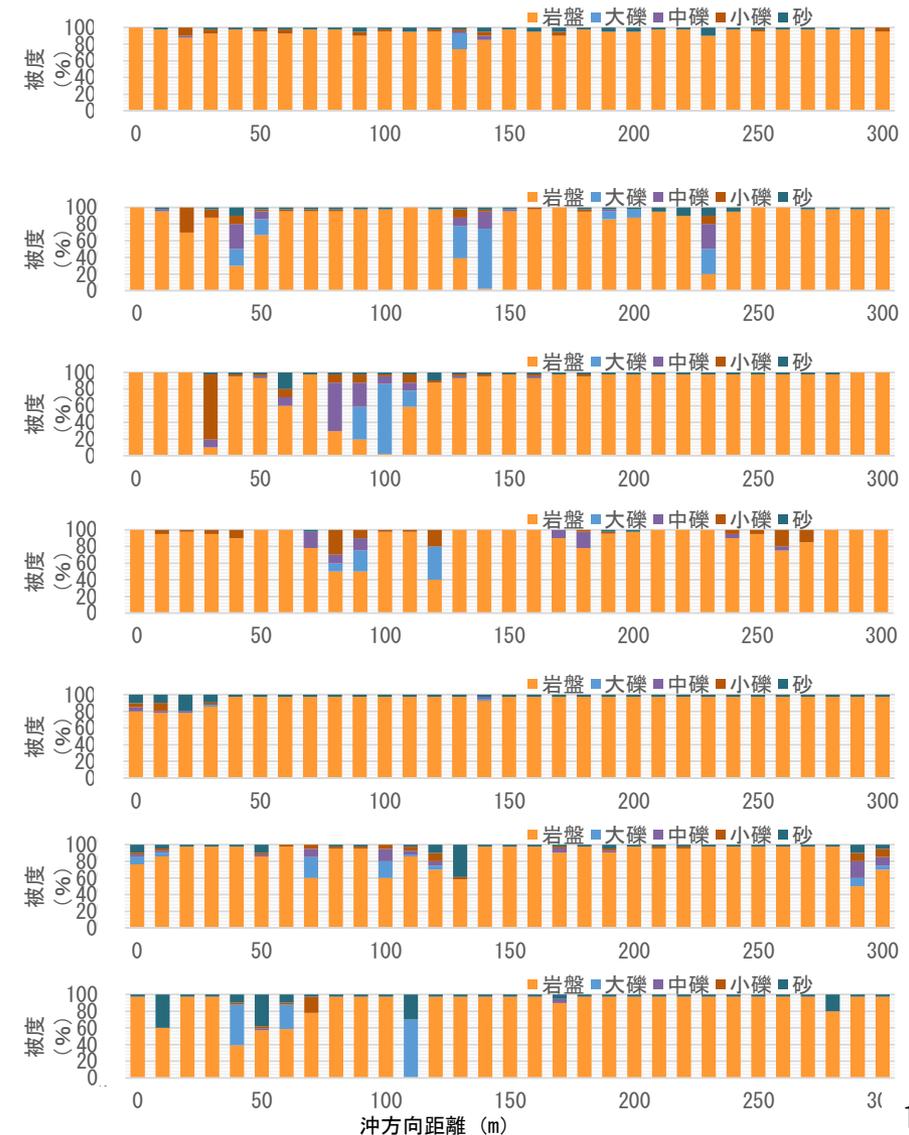
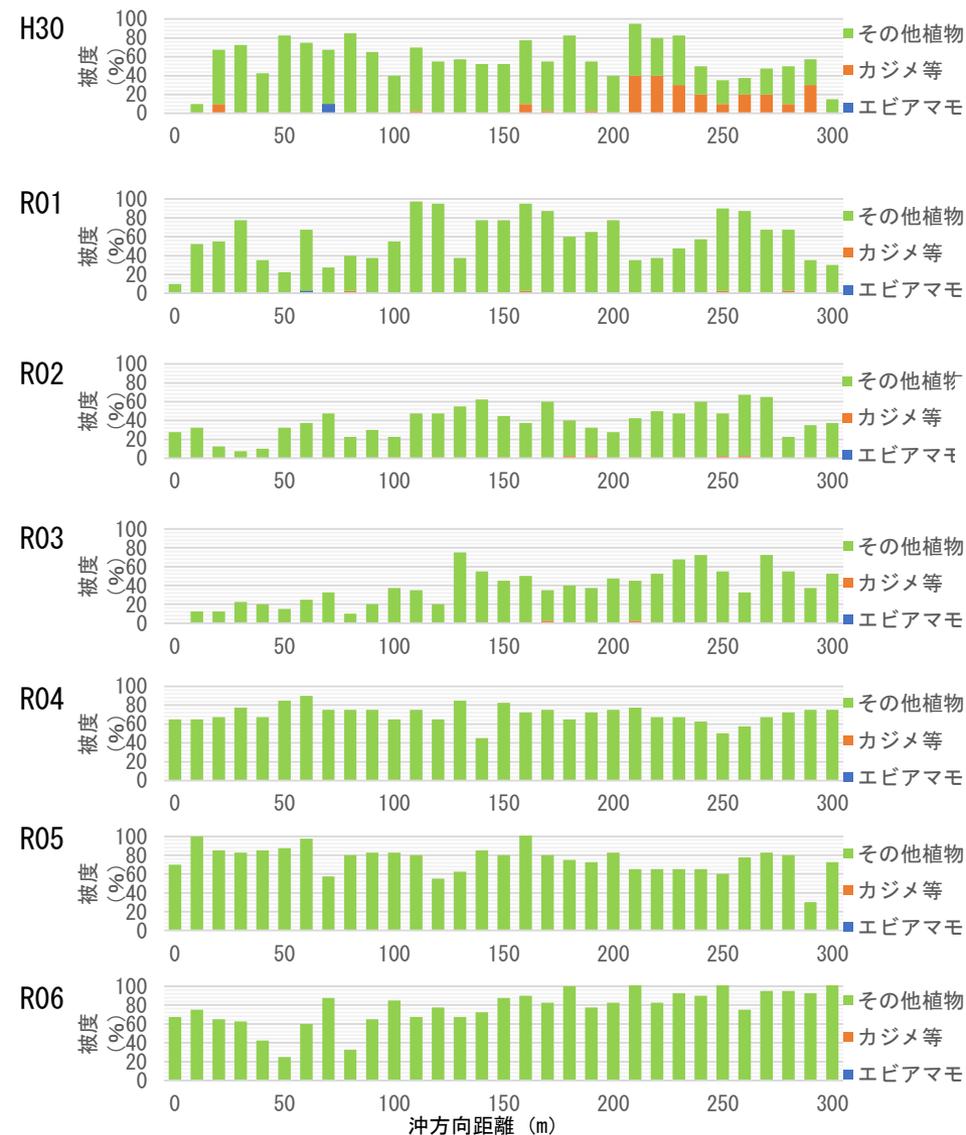


藻場 藻場の断面経年変化 (L-5)

L-5 (極楽寺川付近)

● 岩盤の割合が高い測線。

● R1にエビアマモ、カジメ等の藻場構成種が減少。R4以降未確認。



付着生物の経年変化（植物）

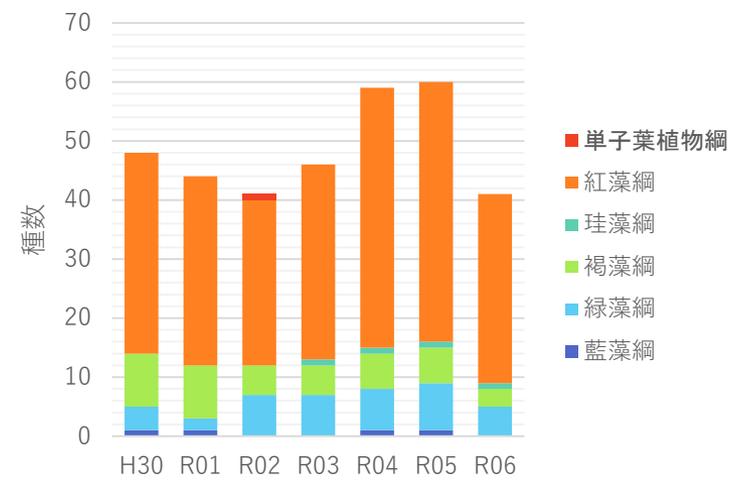
付着生物調査

- 既往調査測線の水深ごとの定量採取と室内分析により、付着生物（植物・動物）等の生育・生息状況を把握
- 5測線（L - 1～5）において各3地点（T.P. -1m、T.P. -2m、T.P. -3m）調査実施

植物

確認種

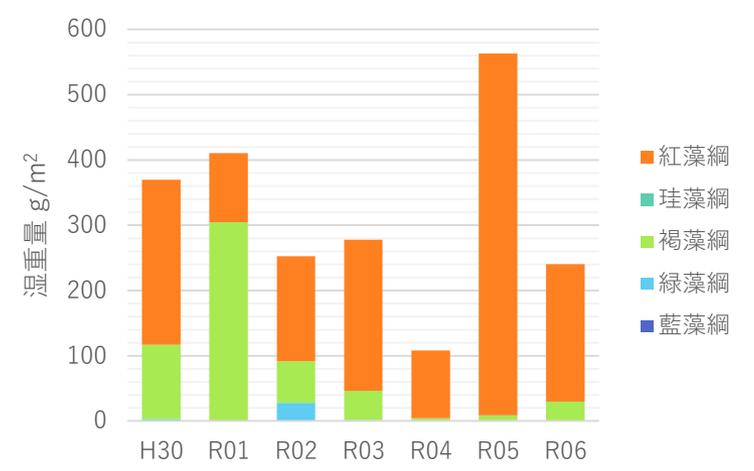
● 紅藻綱が多く、令和2年以降増加傾向にあったが令和6年は減少。



サンゴモ属

湿重量

● 褐藻綱(アラメ・カジメ等)から紅藻綱(サンゴモ属等)に変化



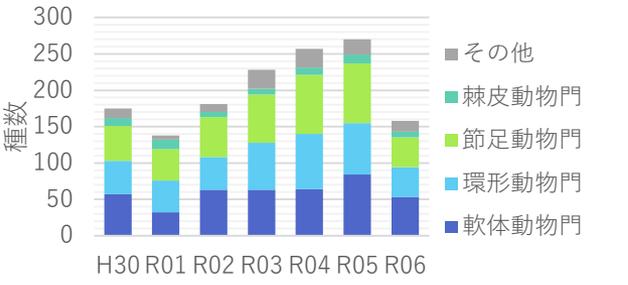
ヘリトリカニノテ属

付着生物の経年変化（動物・水産有用種）

動物

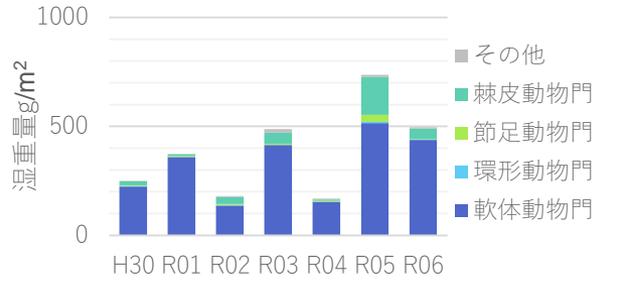
確認種

●R1以降増加傾向であったが、R6は減少。



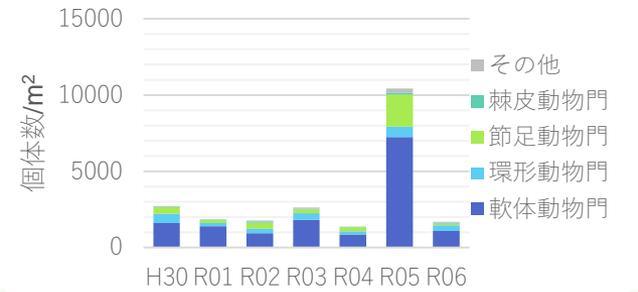
湿重量

●R5と比較すると減少したが、他の年と比較すると高水準。



個体数

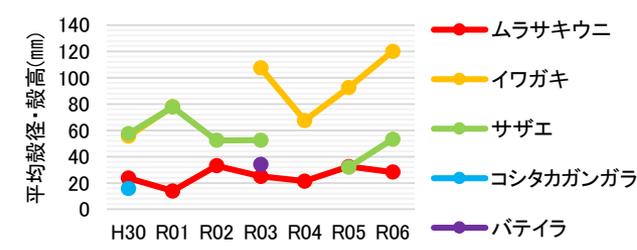
●R5は突出して高水準であったがR6はそれ以前の水準と同程度。



水産有用種

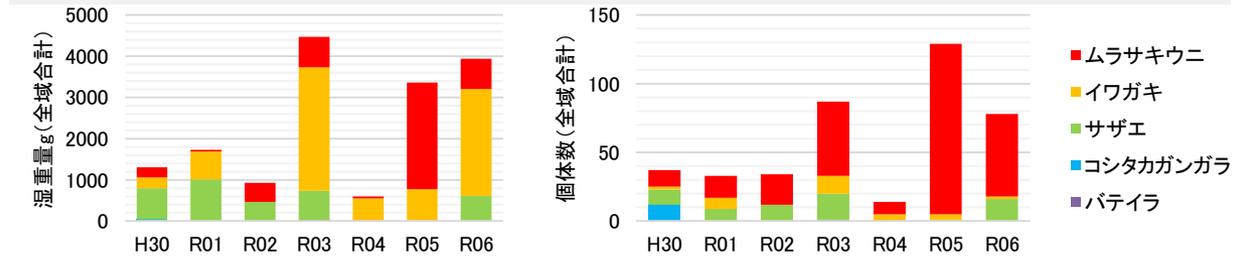
大きさ

●変動が有るものの、ほぼ一定。
●R6はイワガキが比較的大きかった。



湿重量・個体数

●R4、R5と比較するとR6はサザエがやや多く確認された。
●大型のイワガキが確認されたことで、湿重量が増加した。



イワガキ



ムラサキウニ



サザエ



ヒバリガイモドキ



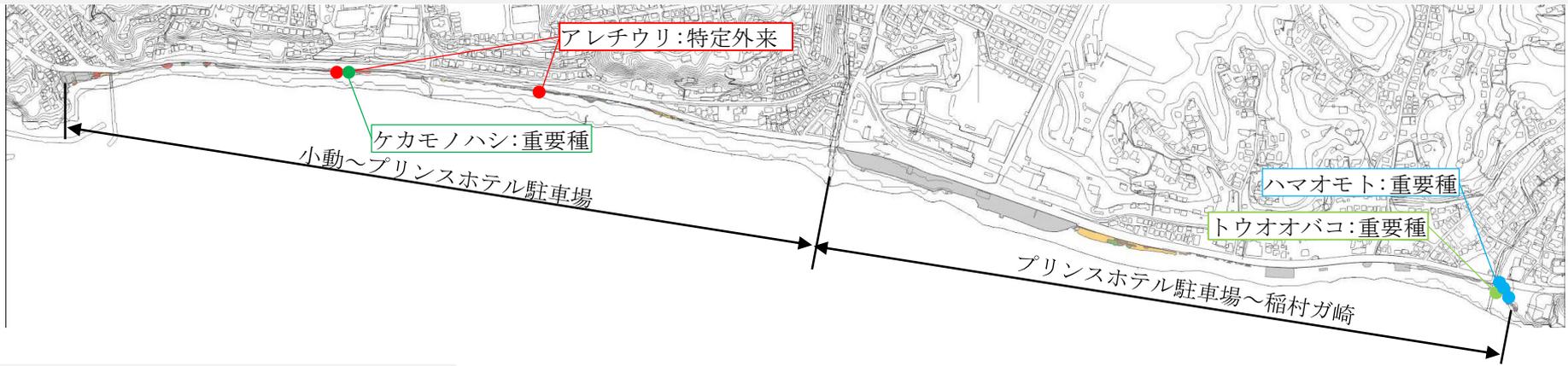
クロアワビ



イセエビ

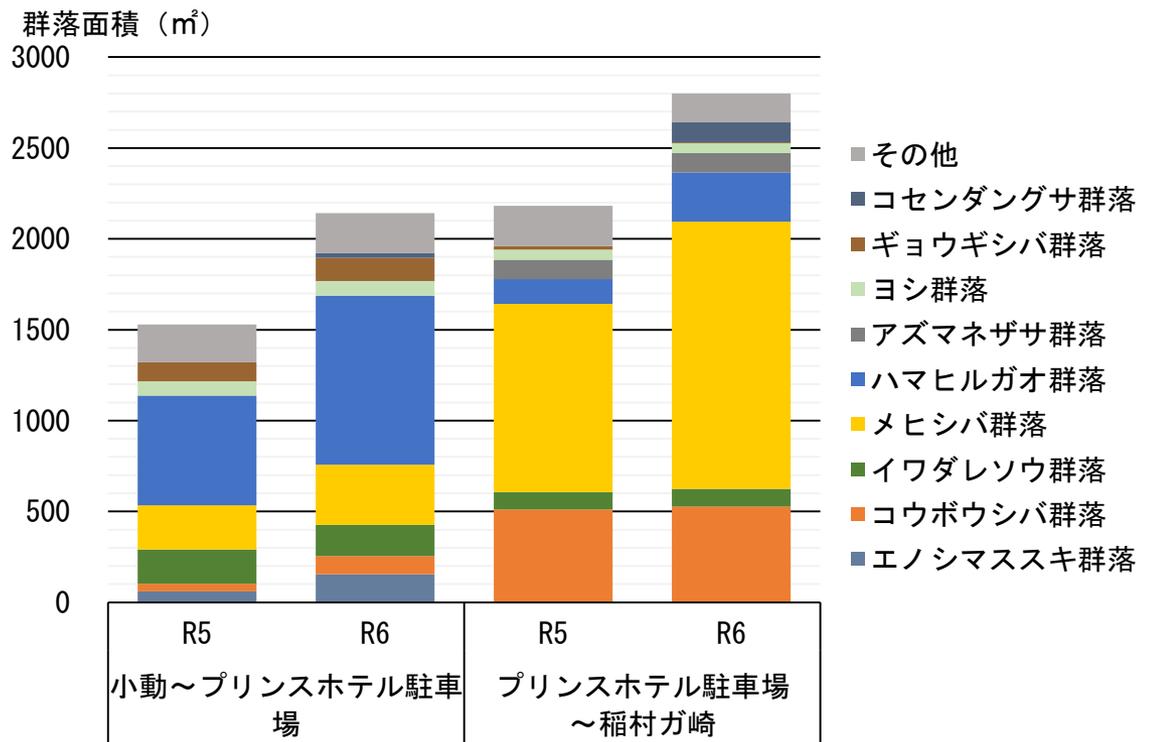
七里ヶ浜の植生状況（植生図）

■腰越～稲村ヶ崎周辺の植生図を作成

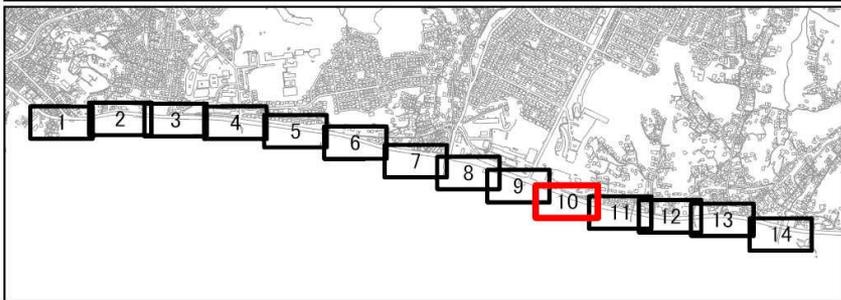
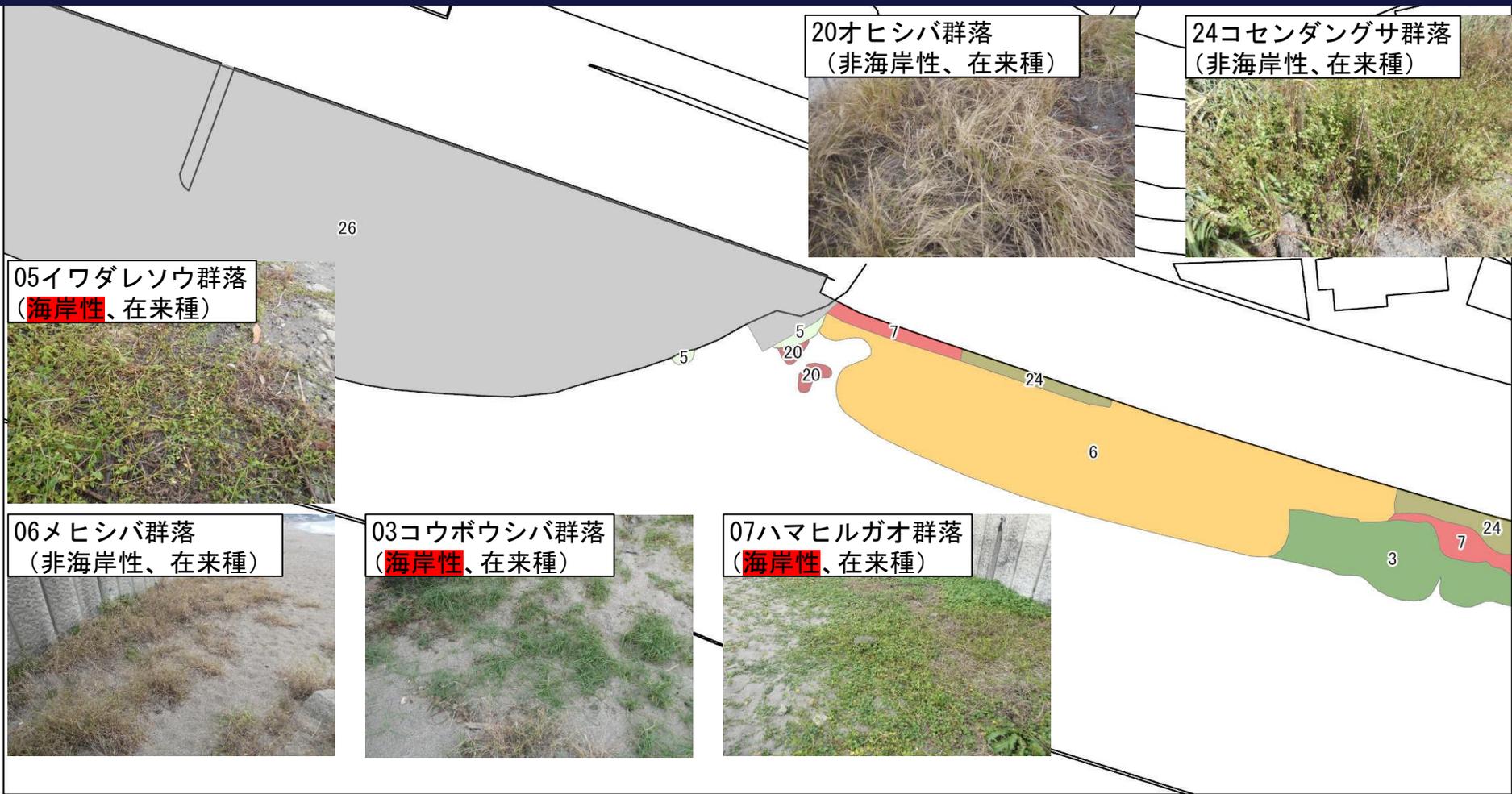


群落面積の変化（R5～R6）

- R6では、R5と比較し群落面積が拡大
- 駐車場より西：ハマヒルガオが多い
- 駐車場より東：コウボウシバが多い
- メヒシバ群落拡大：養浜盛土に繁茂
- ハマヒルガオ群落拡大：波浪による攪乱少



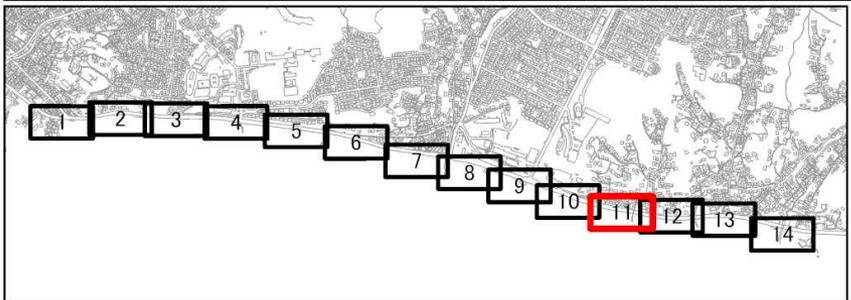
鎌倉プリンスホテル駐車場東側の植生状況①



凡例

1 エノシマスキ群落	8 イソギク群落	15 コマツヨイグサ群落	22 オオオナモミ群落
2 ツルナ群落	9 イナムラヨモギ群落	16 ハマカンゾウ群落	23 オシロイバナ群落
3 コウボウシバ群落	10 トベラ・シャリンバイ群落	17 モクビヤッコ群落	24 コセンダングサ群落
4 コウボウムギ群落	11 アズマネザサ群落	18 ギョウギシバ群落	25 ハマゴウ群落
5 イワダレソウ群落	12 ヨシ群落	19 ギンギシ群落	26 道路/建物
6 メヒシバ群落	13 イヌホオズキ群落	20 オヒシバ群落	
7 ハマヒルガオ群落	14 クコ群落	21 ラセイトソウ群落	

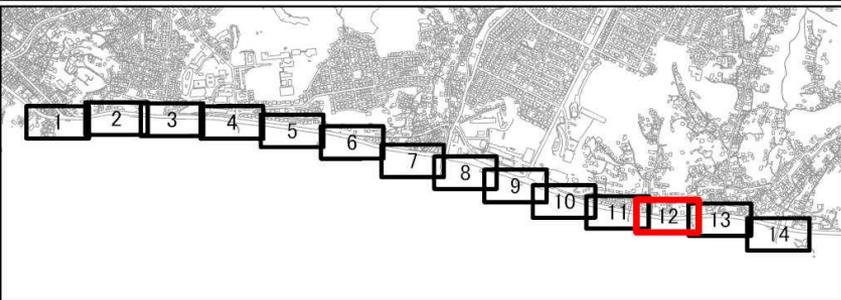
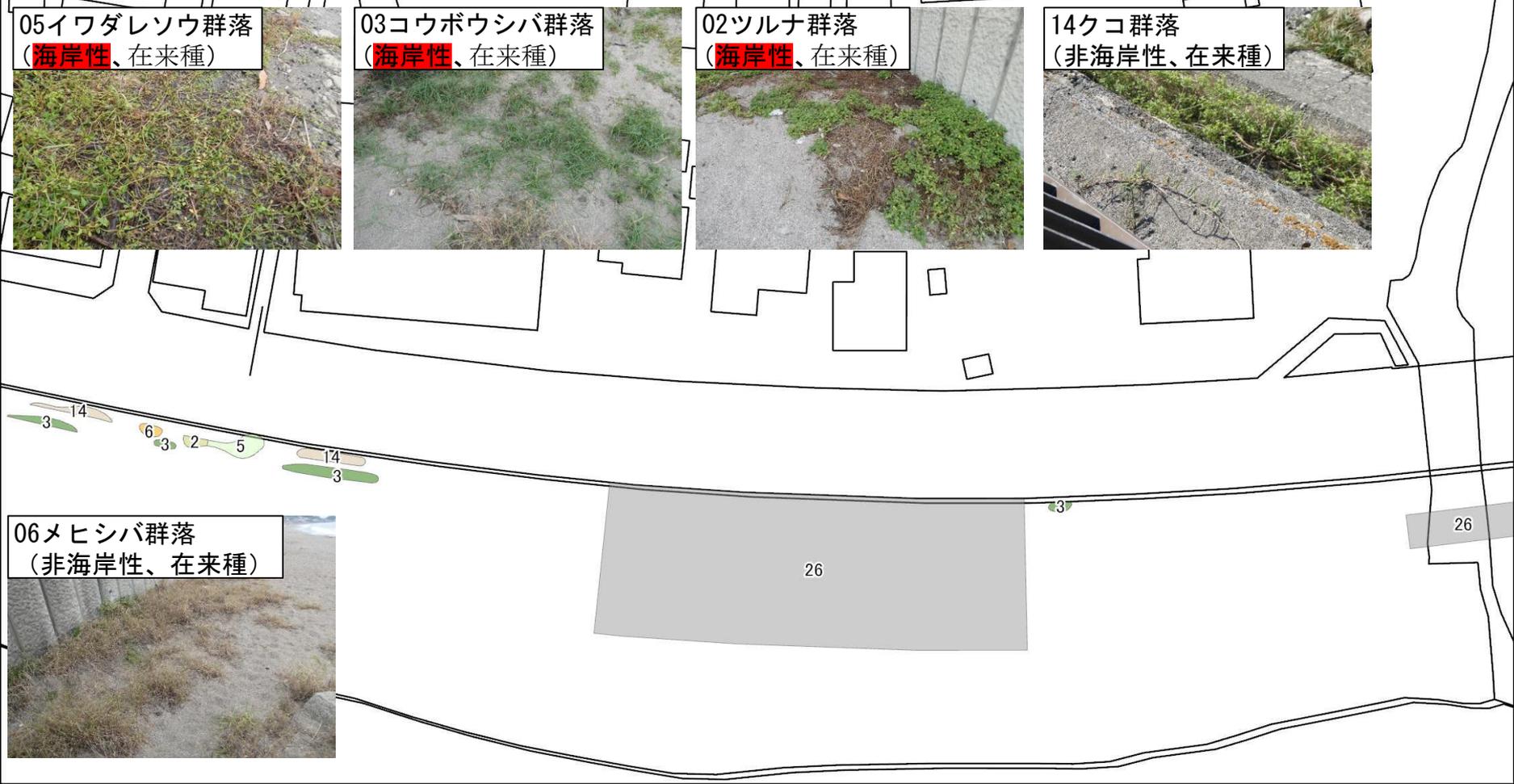
鎌倉プリンスホテル駐車場東側の植生状況②



凡例

1 エノシマススキ群落	8 イソギク群落	15 コマツヨイグサ群落	22 オオオナモミ群落
2 ツルナ群落	9 イナムラヨモギ群落	16 ハマカンゾウ群落	23 オシロイバナ群落
3 コウボウシバ群落	10 トベラ・シャルンバイ群落	17 モクビャッコウ群落	24 コセンダングサ群落
4 コウボウムギ群落	11 アズマネザサ群落	18 ギョウギシバ群落	25 ハマゴウ群落
5 イワダレソウ群落	12 ヨシ群落	19 ギシギシ群落	26 道路/建物
6 メヒシバ群落	13 イヌホオズキ群落	20 オヒシバ群落	
7 ハマヒルガオ群落	14 クコ群落	21 ラセイタソウ群落	

鎌倉プリンスホテル駐車場東側の植生状況③

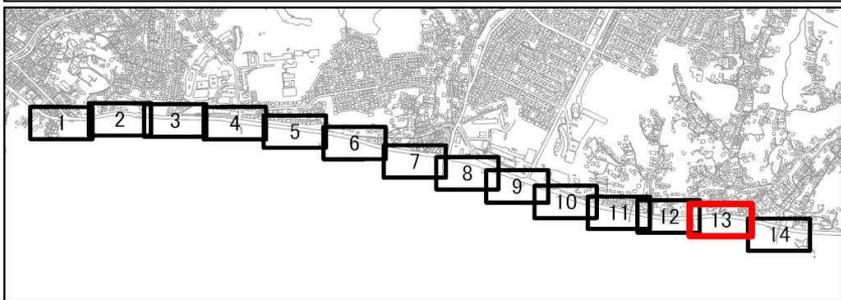
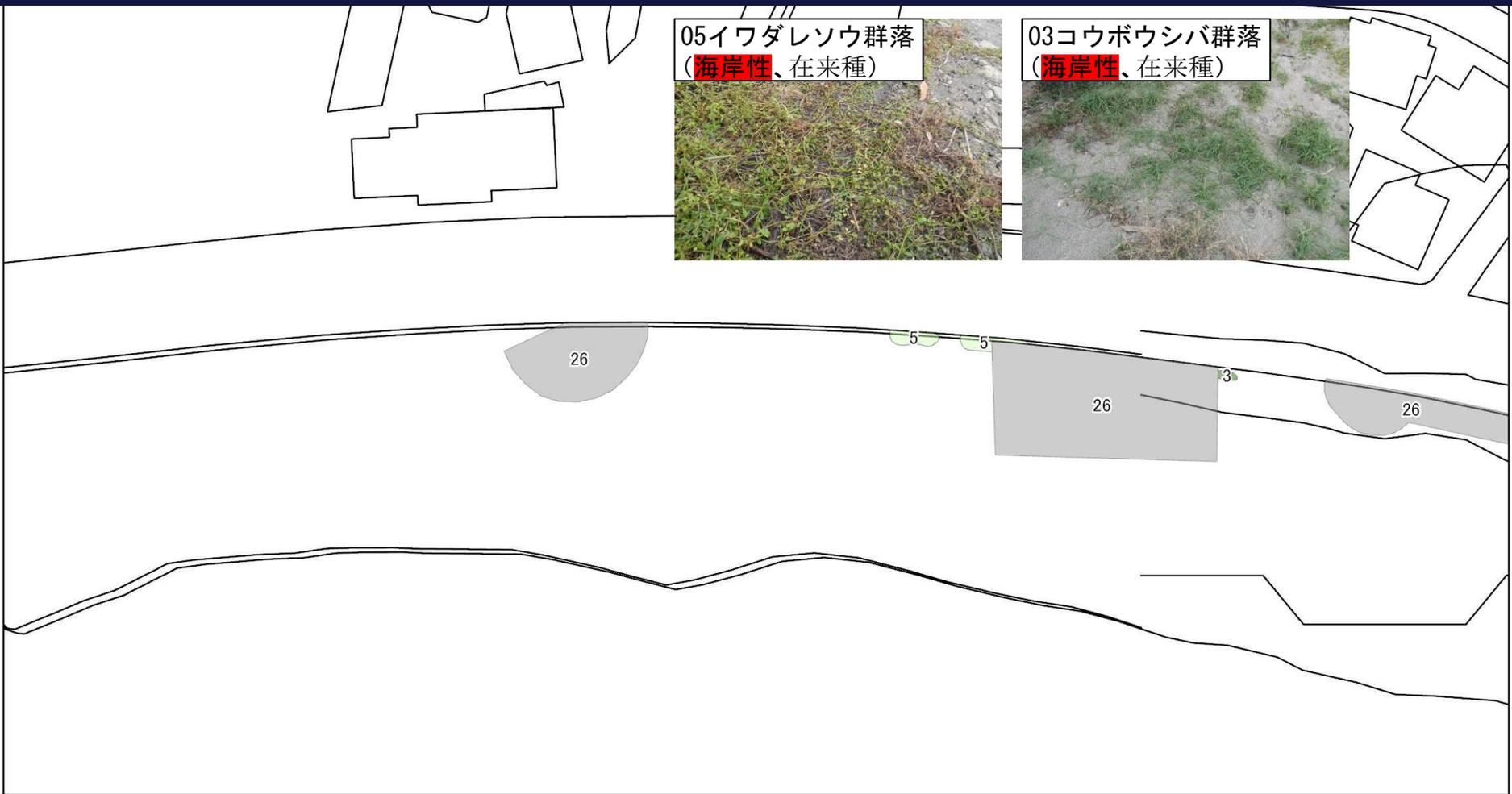


0 25 50 100 m

凡例

1 エノシマススキ群落	8 イソギク群落	15 コマツヨイグサ群落	22 オオオナモミ群落
2 ツルナ群落	9 イナムラヨモギ群落	16 ハマカンソウ群落	23 オシロイバナ群落
3 コウボウシバ群落	10 トベラ・シャリンバイ群落	17 モクビャッコウ群落	24 コセンダングサ群落
4 コウボウムギ群落	11 アズマネザサ群落	18 ギョウギシバ群落	25 ハマゴウ群落
5 イワダレソウ群落	12 ヨシ群落	19 ギシギシ群落	26 道路/建物
6 メヒシバ群落	13 イヌホオズキ群落	20 オヒシバ群落	
7 ハマヒルガオ群落	14 クコ群落	21 ラセイトウ群落	

鎌倉プリンスホテル駐車場東側の植生状況④



0 25 50 100 m

凡例

1 エノシマススキ群落	8 イソギク群落	15 コマツヨイグサ群落	22 オオオナモミ群落
2 ツルナ群落	9 イナムラヨモギ群落	16 ハマカンゾウ群落	23 オシロイバナ群落
3 コウボウシバ群落	10 トベラ・シャリンバイ群落	17 モクビャッコウ群落	24 コセンダングサ群落
4 コウボウムギ群落	11 アズマネザサ群落	18 ギョウギシバ群落	25 ハマゴウ群落
5 イワダレソウ群落	12 ヨシ群落	19 ギシギシ群落	26 道路/建物
6 メヒシバ群落	13 イヌホオズキ群落	20 オヒシバ群落	
7 ハマヒルガオ群落	14 クコ群落	21 ラセイトウ群落	

鎌倉プリンスホテル駐車場東側の植生状況⑤

